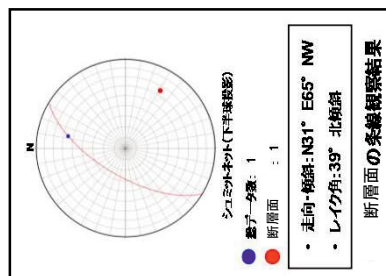
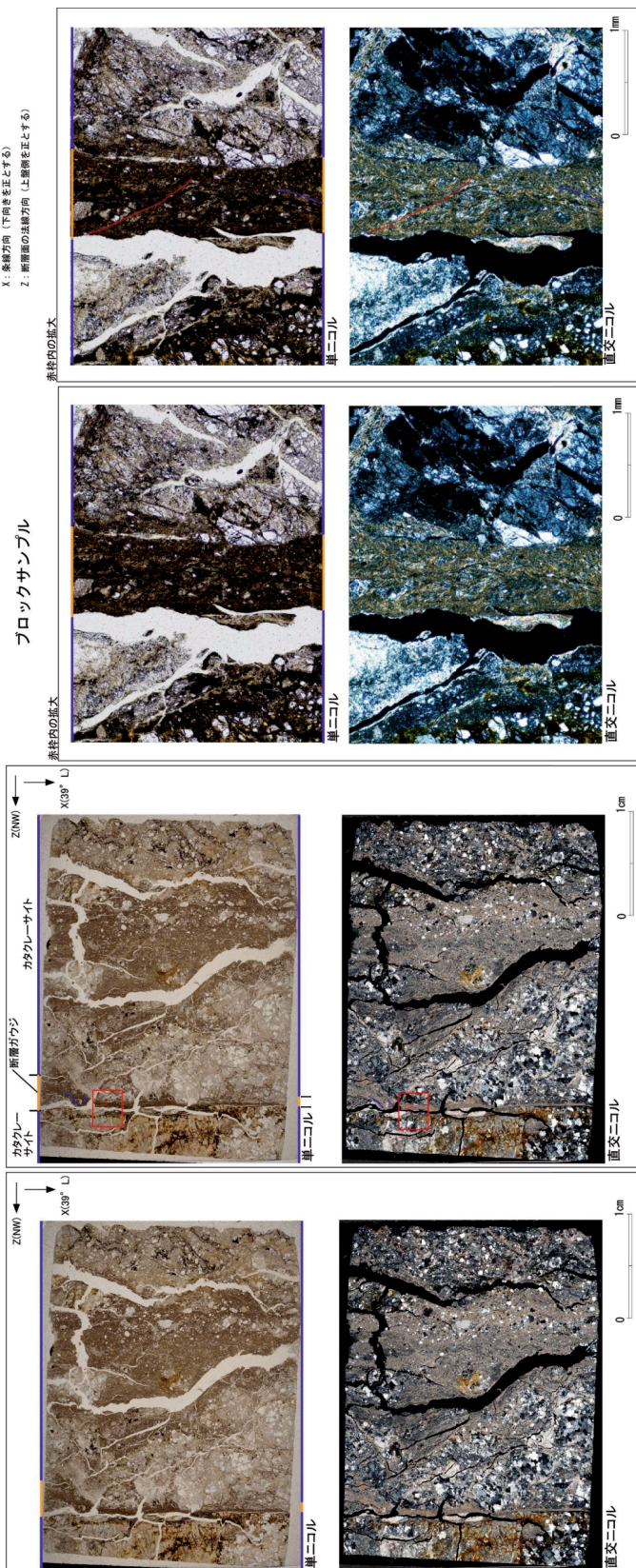
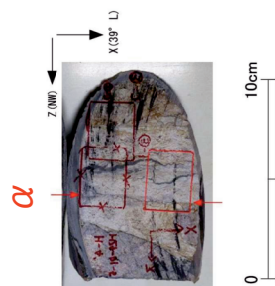
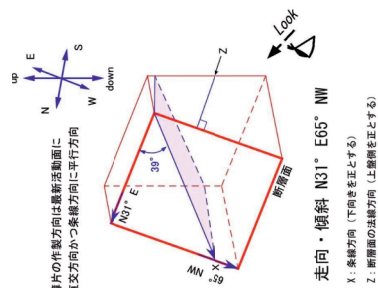


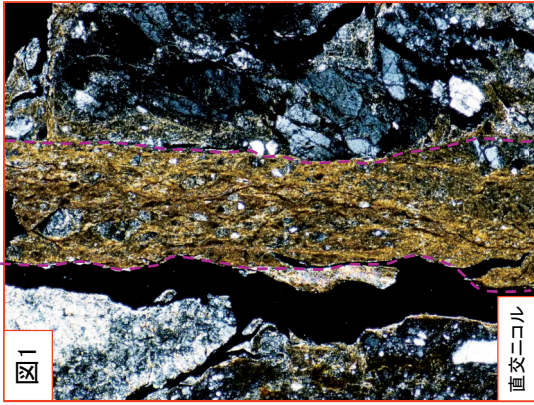
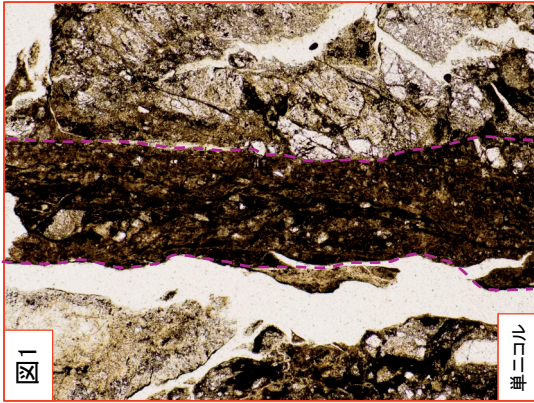
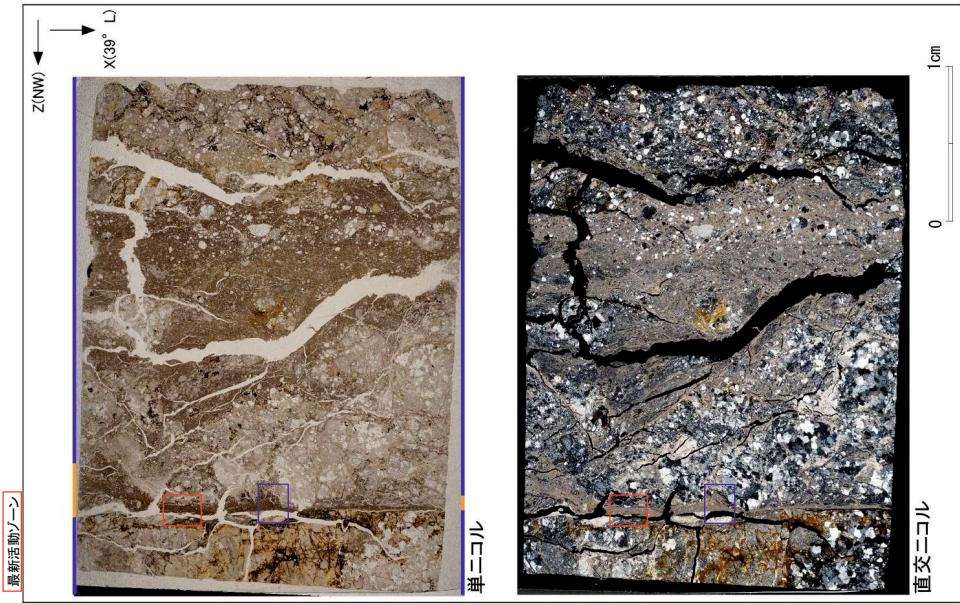
- ・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



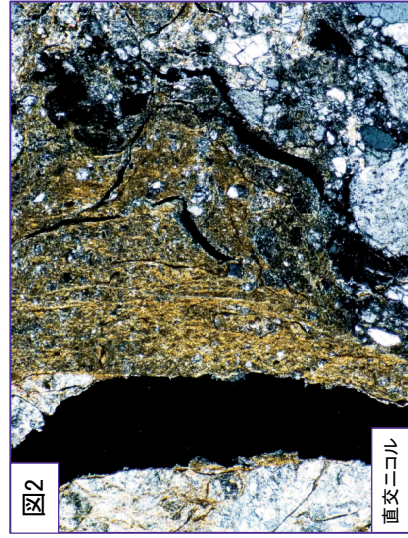
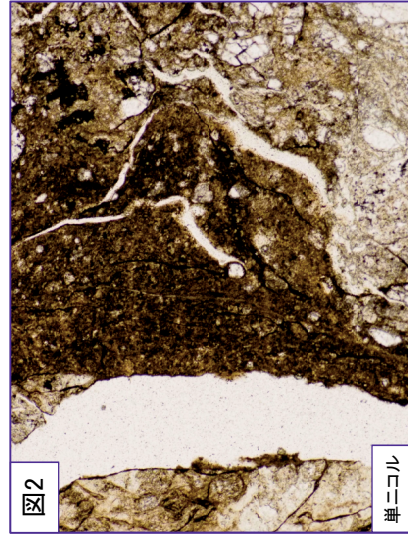
※断層面 α は最新活動面



- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



凡例
断層ガウジ
カタレーサーサイト

(肉眼観察結果 深度10.45m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された最新活動ゾーンの軟質な細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.1	有

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

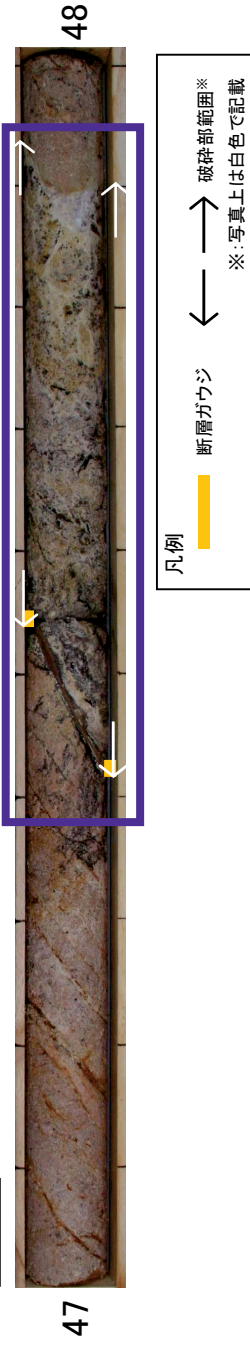
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度47.47～47.48mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層がウジであると判断した。
- ・深度47.48～47.66mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度47.66～47.86mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度47.86～47.89mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 47.47～47.89m：破砕部 (D-I破砕帯)
- 47.47～47.48m：粘土状部 (Hc-1) 傾斜65°で直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3～6mm。
- 47.48～47.66m：粘土質礫状部 (Hb) 上端65°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2～3mmの石英粒と径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。幅67mm (68°)。
- 47.66～47.86m：粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシャープに連続。径10～40mmの一部粘土化、一部硬さ「E」、ないし、「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄～灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体は灰黄～灰白色を呈する。幅90mm (63°)。
- 47.86～47.89m：粘土質礫状部 (Hb) 上端63°、下端60°でともに直線的にシャープに連続。径2～10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部

細粒部が網目状に分布する

細粒部が網目状に分布する



細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 β は最新活動面

コア写真

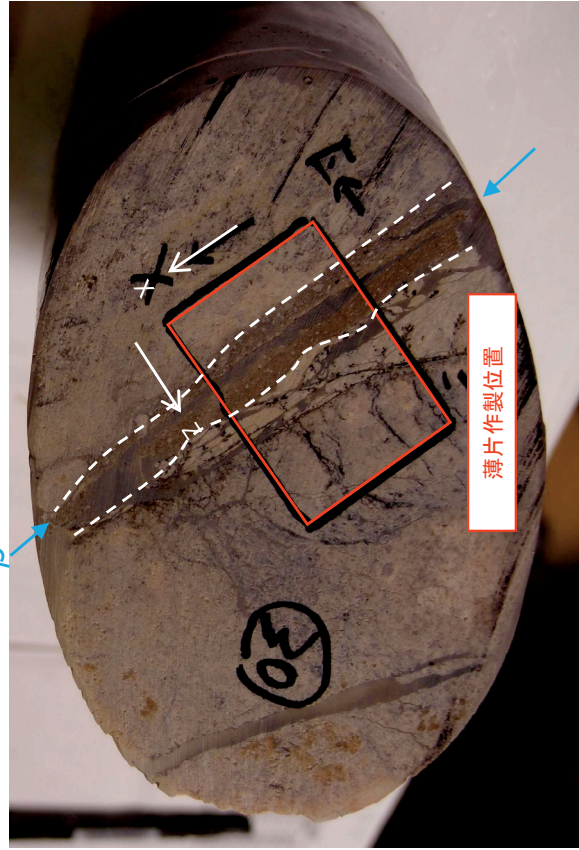


凡例

- 断層ガウジ
- 断層面
- 破碎部範囲※
- 断層面

※: 写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

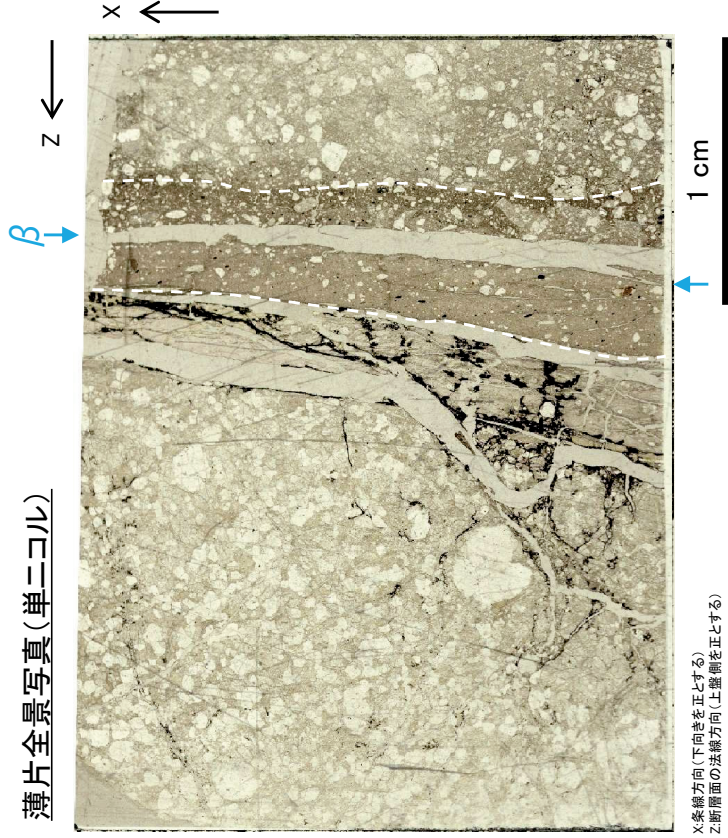


凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X: 透視方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面βは最新活動面

